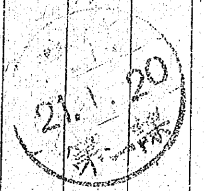
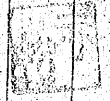


中支海軍...
昭和二十一年八月九日調製

昭和二十一年八月九日調製

戰史資料

海上挺進第三戰隊



東京國本ノ111納

戰史資料

海上挺進第三戰隊 (中隊長 陸軍佐 赤松 嘉次)

(編成裝備關係)

海上挺進第三戰隊

編成 長

中隊長

附將校

下士官 (船羽兵特別幹部候補生)

裝備

① 艇

三〇式炸雷

一〇〇式機關短銃

二六式拳銃

三〇式軍刀

海上挺進第三戰隊

編成 長

將校

下士官

裝備 三平無線機

五号

電話機

九九式重機

九九式輕機

一〇式

八九重擲彈筒

小銃

黃色藥

一

三

一一

七九

一〇〇

二一〇

五

一〇四

七九

一

七

一五三

一

四

八

二

四

二

七

一五三

五五〇斤

全彈藥

(二〇〇〇)

海上挺進隊三整備隊

編成 長

將校 二 (内技術一)

下士官兵 五二

裝備 輕修理車 一

小銃 四五

特設英界上勤務中隊 (小隊)

編成 長 (將校) 一

下士官兵 一三

軍夫 (鮮人) 二〇

2. 職員表 別紙、如シ

3. 人員兵器増減ナシ

4. 鮮人現地住民使役關係

鮮人並現地住民ハ主トシテ作戦準備ニ使用セリ戦況下ヲ除キテハ概々咽調ニ作業進捗セリ

二部隊履歴概要

昭和十九年九月一日 宇品船團司令部於テ編成完結

昭和十九年九月十日 英軍司令部隷下ニ入り宇品至港南西諸島ニ向フ

昭和十九年九月二十日 慶良間列島渡嘉敷島ニ上陸任セ著ク

昭和十九年十月一日 沖繩天守作戦ニ参加

昭和十九年十月五日 渡嘉敷戦比米軍奇リ武装解除ヲ受ク

三指揮隷屬關係其変遷概要

編成完結直後英軍司令部隷下ニ入り昭和十九年十月軍艦

湘園ノ設立セリ又英軍司令部船團長ノ指揮下ニ入り沖繩作戦ニ参加

四作戦準備關係

1. 作戰計畫概要 別表

2. 陣地状況

部隊到着後直本然任務は海上作戦を為基地施設作業
ヲ實施ス而シテ三月中旬於テ概テ完成シ敵機動近回時ニハ
全舟艇洞窟或ハ輕掩蓋ヨリ秘若掩護得テ然レバ地上
戦ヲ為陣地ハ殆ト皆空ニシテ幸ヒテ砲臺ヲ有スル程度ニ
テ戦ヲ入レリ

3. 作戦準備因テ主要命令内容

不軍慶島前部隊ヲ対テ海上作戦準備ヲ英(下)陸上戦ハ
慶島前部隊ハ英ニシテ尚命令ヲ受ケルヲ以テ主トシテ海上作戦
準備ニ専念シ陣地構築ハ殆ト實施セズ
四三月下旬中隊戦備命令ヲ受領ス
八三月下旬中隊本島轉進命令ヲ受ク

4. 軍需品ノ集積状況

部隊全員ニ對スル半年分糧秣ヲ集積ス
其他特記事項ナシ

5. 訓練状況

任地到着後主トシテ海上作戦ヲ為舟艇訓練暨海教育ヲ
實施ス

五. 戦況

1. 参加セル主要ナル作戦(戦況)ノ概要

三月十三日兩日爆撃ヲ引續キ三月十六日敵艦艇慶島南海峽
ニ侵入シ艦砲射撃ヲ加フ連日砲爆撃ニヨリ舟艇ニ若干ノ損傷ヲ
受ルトモ泛水施設ハ大半破壊セシ聲力搬送ハ止ムヤクセル
三月廿日台時帯本島轉進ニ因ルニ九ノ命令ヲ受領シ折カテ
阿嘉島ヨリ米島セリレル等十ノ船團團長大野茂大佐ノ命

ニリテ遂ニ轉進シ決シテ水ニ着キス

命令ノ要旨

状況有利ナラザル時、戦隊ヲ率ヒ本島ニ轉進スルニシテ
 部隊ヲ離シ水ヲ用始セルニ敵艦艇ノ妨害受ケ意、如ク進捗セズ
 阿波連ニ於テ敵艦港灣ニ進入シ遂ニ決水不能トナルニ方渡嘉志久
 中火基地ニ艦砲ト加シ半島安身軍火訓練不充分ト施設ノ
 破壊ヲ行テ是、如ク進捗セズ、全舟艇、決水不能トナルハ七日
 〇五〇〇ニシテ轉進ハ不可能ナリ、亦揚陸モ不可能トシ、
 日晝敵艦艇ニ斬込シカ他五戦隊ノ企圖ヲ暴露スベシ決テ
 振テ受敵ヲ自光ス誰カ之ガ心情ヲ察セラル、二十六日亦砲爆
 轟前日ニ倍シ敵上陸ノ算大ナリ、二三〇〇艦艇團長ヲ率ヒテ
 揚陸セル艦ヨリ本島ニ護送ス、海上艇進ノ作戦ヲ新念ヲ余
 儀ナラセセル、敵部隊ハ敵上陸ニ備ヘ非戦中員又諸資材ヲ
 復廟陣地ト予定モ留リ加波東方高地ニ移動セシム砲爆轟
 シリ金島火ニシテモテリ、雖モ金島北岸ヨリ地域ハ狹深
 キ山ニシテ晝尚晴ク爲何カ所望ノ地矣ナルヤ判別セズ
 剛シバニ七日早朝戦車数輛ヲ伴フ約一併隊ノ敵ハ留
 利加波渡嘉志久阿波連ニ方リ上陸ス部隊ハ一部小隊戦中ヲ密
 施シ十七日早朝復廟陣地ニ撤退シ配備ヲ完了ス敵ハ三方ヨリ
 陣地ニ包圍攻撃、態勢ヲ示シ次更ニ來ルモ密林ノ爲小隊中ヲ密
 施セルモ之ヲ棄退スルニ方ヨリ在来セル之ヲ射シ部隊ハ夜間
 斬込ヲ實施ス、カクシテ敷度攻撃ニ來ルモ之ヲ棄退ス
 三十日夜敵ノ戦車並艦砲掩護ノ下ニ撤退ス時、敵情不明ニシ
 テ之ヲ乘ジ得ザリシヲ遺憾トス、敵撤退セルト雖モ眼下度及前
 海峡ニ百餘ノ艦艇並飛行艇アリ亦毎日、如ク渡嘉敷島ニ
 上陸シ部隊ヲ搜索ス時、部隊ノ糧秣、大部分部落附近ニ

アリの島大軍焼却せしむ。一月平均、マツチ箱一杯、米及
 テ現地自活ヲ始ム。然レ五月十日約、大隊敵ハ上陸シ米ハ
 又テ部隊迄ト相俟保シ戦中開始ス。幸シテ部隊陸地ハ概成
 シテテ敵攻撃ニ微動スルモス。然レ戦ニ至テ、前其陣地ハ
 奪取セシムルニテ、然レ、切テ新テ、敵ハ陣地ヲ構築
 シ、鉄條網地雷障礙ヲ設置シ、積極的トシテ行動ス。得ル
 此向部隊ハ、突ニ、建設ヲ自指シ、陣地構築ト現地自
 活ニ邁進ス。カクテ陣地ハ益々鞏固トナリ、雖モ糧秣方
 面ハ甚シク貧乏言語ニシテ、カクテ終戦ニ至ル迄、一大隊
 乃至大隊半ノ敵戦中ヲ進行ス。密ニ此内戦中ハ敵ト糧秣
 ニ對シテ戦中トシテ、話聞ク、南西諸島ノ状態ハ、勝ルモ劣
 ラスモト思奉ス。

八月五日諸情報ヲ綜合シ終戦ノ確實ナルヲ知リ、十日敵ト協定
 ニ至リ、渡ヲ谷ヲ湖印ヲ奪取ス。

乙. 機動部隊來襲状況

沖繩本島ハ、

六. 給養衛生

給養ノ前述、如前難ヲ極メ、雜草、蘇鉄、蛇、トナリ、
 軍糧ノ食得ルモ、ハ、食ニ終リ、現地自活態勢整ハントスル
 頃終戦トナリ、之ガ為多數榮養失調者ヲ出シ、銃ヲ持
 テテ、起テ得ルモノ約半數トス。而シテ、菓菜不足ニテ、亦食物肉
 係上脚氣、フライヤ、下痢等ニ罹リ、

七. 終戦ヨリ帰還迄行動概要

昭和二十一年八月十八日、渡嘉敷島駐屯米軍指揮官、カシリ中佐
 一會見、停戦協定ヲ結ビ、
 昭和二十一年八月二十日、武装解除調印式

昭和二十一年八月二十四日 武裝解除 座間味島 移動

昭和二十一年八月二十五日 沖繩本島 石川收容所 移動 部隊 編成

昭和二十一年八月二十六日 解⁺隊⁺校⁺ 下⁺宮⁺ 兵⁺別⁺収⁺容⁺ソ⁺ル

昭和二十一年八月三十日 沖繩本島 房⁺乘⁺撤⁺

昭和二十一年八月七日 浦賀 上陸